

＜歴史的分野＞

以下、歴史的分野について詳しい検討を試みることにする。

ちなみに令和8（2025）年度の茨城県立高校入試問題の歴史的分野の問題は、大問2の中に小問が8つ。公民的分野の大問3に歴史関連の問題が1つ、総合的な問題の大問4にも歴史関連が2つで合計11の問題がある。上記レポートが「著しく不利」になるとしているのはこのうち6つである。ということは残りの5つはとくに問題はないと判断していることを確認しておく。

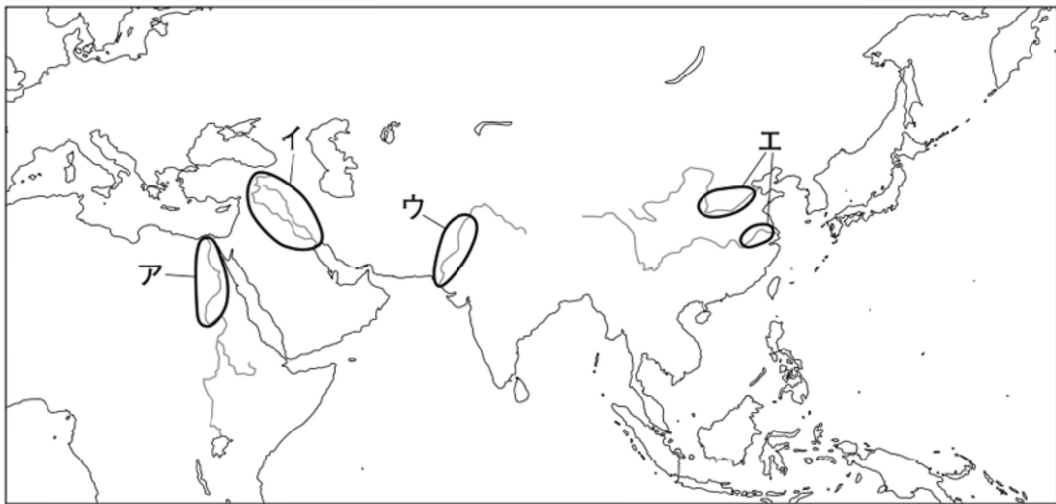
（1）古代文明の問題（レポートでは「エジプト文明と太陽暦」）

- (1) はるきさんは、古代文明がおこった地域を学習し、＜メモ1＞のようにまとめました。
＜メモ1＞を見て、その古代文明がおこった地域を、資料1の ア～エの中から1つ選んで、その記号を書きなさい。

＜メモ1＞

- ・ 紀元前3000年ごろに統一王国ができた。
- ・ ナイル川の増水などの時期を予測するために、1年を365日とする太陽暦が作られ、象形文字も発明された。

資料1 古代文明がおこった地域



＜メモ1＞に記されている用語から判断して、資料1の ア～エからその「古代文明が起こった地域」を選ぶ問題である。

＜メモ1＞には①紀元前3000年ごろ②ナイル川③太陽暦④象形文字の4つの用語がある。レポートではこの中の③が自由社教科書には書かれていないので「著しく不利」になるというのだが、①②④はちゃんと教科書本文に書いてある。4つのうち3つは明示されている。1つないだけで「著しく不利」になるとはちょっと大げさである。他の3つの用

語をもとに十分に正答のア（エジプト）にたどりつける。とくに資料1は地図であるから最大のヒントはナイル川と言えるだろう。ちなみに自由社には地図が掲載されている。生徒の皆さんは地図で視覚的に四大文明の位置をナイル川とともに知識として定着させているはずだ（なお、東京書籍にもこのような地図は載せられている）。

そもそも出題者は、エジプト文明に関するすべての用語を暗記していなければ解けないような問題を作ろうとしているのではない。1つでも覚えていれば他の用語を問題文の中で結びつけることでエジプト文明を想起できる力を試すために作問しているのである。そして、それを地図上の場所とつなげる力を見せて欲しいと考えて出題しているはずだ。

これは1つ以上の知識と他の知識との関連で思考を促し、地図上の場所を判断させるための問題である。ところが、レポートではエジプト文明に関するあらゆる知識をもっていないと「著しく不利」なるのだと言う。これは知識偏重主義である。なぜ生徒の思考力を信じることができないのだろうか。

(2) 仏像の問題（レポートでは「仏像の図像と名称」）

- (4) はるきさんは、鎌倉時代に興味をもち、＜まとめ1＞を作成しました。＜まとめ1＞を参考に、鎌倉時代に作られたものとして最も適切なものを、下のア～エの中から1つ選んで、その記号を書きなさい。

＜まとめ1＞

鎌倉時代には、貴族を中心とする伝統文化に加え、武士の気風を反映した力強い文化が生まれた。

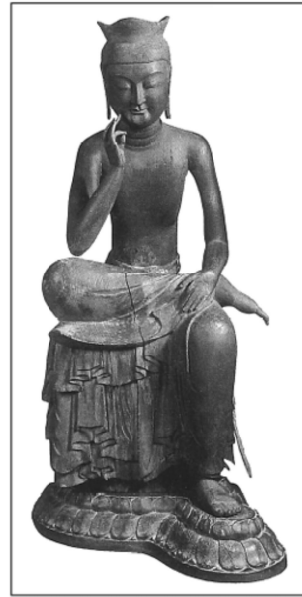
ア



イ



ウ



エ



この問題は文化史に関する問題だが、(1)と同じ出題形式である。＜まとめ1＞にある説明文を手がかりにして4枚の画像から適切なものを選択させる問題だ。

＜まとめ1＞の「武士の気風を反映した力強い文化」が重要な手がかりであることは誰もが理解できる。虚心坦懐に4枚を比較すれば「力強い」表現の作品はイの金剛力士像であることは一目瞭然である。このような、いわば芸術的な“表現”を問う場合は、個々人の感性が左右することになる。ゆえに出題者も「差」が感じにくいものを並べて選ばせることは避けるはずである。

その点、この問題は良問と言える。この4枚の中で「金剛力士像」は明らかに他の3枚とは違うからである。腕の表現に着目すれば金剛力士像の隆々たる筋肉に比べて、他の3枚にはほとんど筋肉は感じられない。手の表現に着目すれば他の3枚は手を合わせたり印

相（手印）を作ったりしているが、金剛力士像は右手に武器である金剛杵（こんごうしよ）を持ち、左手は手のひらこちら側に向けていて違いは明確である。唯一、生徒が判断に悩む可能性があるとする、エの阿修羅像の顔がやや陰しい点だろう。これも「力強い」と言えば言えるかもしれない。だが、それでも前述の「筋肉」や「手」の表現に比べれば解答にたどり着けるはずだ。

この問題は、他の時代の文化と「武士の気風を反映した力強い文化」を比較考察してその違いに気づくことができるか、を問うている。単純に画像の名称や〇〇時代を暗記していなければダメだということではない。ところがレポートによれば、（１）と同じくすべての仏像の画像を教科書に載せて、網羅的にその名称と時代名を暗記しなければ「著しく不利」になるのだという。こういう知識偏重的な考えは時代遅れである。どんな問題が出てきても手がかりとなる一つの知識さえあれば中学生は自分の思考で正答にたどり着けるし、出題者もそういう力を付けて欲しいと望んで作問しているのである。なぜそれがわからないのだろうか。

（３）日本と世界の関係問題（レポートでは「隋による南北朝統一」）

（５）はるきさんは、日本と世界の歴史の関係について調べました。日本の鎌倉時代と同じ時期に、世界で起きたできごとについて述べたものとして最も適切なものを、次のア～エの中から１つ選んで、その記号を書きなさい。

- ア 中国では、隋^{ずい}によって南朝^{なんちよう}と北朝^{ほくちよう}が統一された。
- イ ドイツでは、ルターが聖書に基づく信仰の大切さを唱えた。
- ウ 『世界の記述』（『東方見聞録』^{とうほうけんぶんろく}）を著したマルコ・ポーロ^{ぽろ}が元を訪れた。
- エ スペインの後援を受けたマゼランの船隊が、初めて世界一周を成しとげた。

日本の鎌倉時代と「同じ時期」の世界の出来事を選ぶ問題である。

問題文は「日本の鎌倉時代と同じ時期」を選ぶように指示している。

アのキーワードは「隋」という国名である。イは「ルター」。つまり宗教改革である。ウは「元」という国名。エは「マゼラン」「世界一周」である。

では鎌倉時代と同じ時代は？と考えた時のキーワードは「元」であることに気づくはずだ。「鎌倉時代といえば元寇（モンゴル襲来）」は重要な知識である。そうすれば正答にたどり着くのは難しくない。

もしかしたら生徒の中には「他の選択肢についても確かめてみよう」と考える子がいるかもしれない。アの「隋」から連想されるのは「遣隋使」である。「遣隋使」といえば聖徳太子＝飛鳥時代と連想できる。イの「ルター」から連想される宗教改革、エの「マゼラン」「世界一周」から連想される大航海時代は、どちらも日本では戦国・安土桃山時

代と重なる。なぜならこの時期に西洋からザビエルが来日し、西洋から鉄砲が伝来していることがイメージできるからである。西洋諸国と日本の関係が生まれた時期であることが連想できれば鎌倉時代でないこと確認できる。消去法によりア・イ・エは正答ではないことがわかる。細かい知識は不要と言ってよい。

ところがレポートは出題の主旨とはあまり関係のないことにこだわっている。

選択肢アの「隋によって南朝と北朝が統一された」に関連して自由社教科書は「「南朝と北朝の統一」と明記していない」のでダメだと言うのである。「生徒の内容理解のための配慮が決定的に不足している」とまで書いている。「南朝と北朝」を書かないことが「決定的に不足」なのだろうか。

自由社はp 44に「6世紀の末、大陸では重大な変化が起きました。589年、隋が中国全土を約300年ぶりに統一したのです」(下線は筆者)と書いている。この記述のポイントは下線部である。続けてこう記述されている。「強大な軍事力を持つ隋の出現は、東アジアの国々にとって、大きな脅威でした」。この説明があるからこそ、聖徳太子を中心にした飛鳥時代の外交の重要性が生徒にわかりやすくなるのである。「生徒の内容理解のための配慮」を考えれば「南朝と北朝」にこだわるよりもこちらの記述の方がはるかに重要であることがわかるだろう。レポートは受験テクニックを前提にした知識の有無にこだわりすぎである。歴史の流れと因果関係をつかめることが教科書のもつ大事な役割であるはずだ。

なお誤解を避けるために書いておく。

自由社はp 42で「南朝と北朝」についても「5世紀の中国大陸は、漢民族の宋(南朝)と、遊牧民族の北魏(北朝)が争う南北朝時代でした」とむしろ詳しく記述している。ところがレポートはこれには触れずに「国粋主義宣伝のことしか頭にない執筆者」が「ひとこと書いておけば理解しやすいのにあえて記述しない」と人格否定の発言までしている。なぜこんなひどい言葉を投げつけるのだろう。私たちは未来を担う子どもたちのために教科書を執筆し、文科省の検定で合格したものを茨城県の中学生に使ってもらっているのがある。このようなハラスメントまがいの発言には謝罪を要求したい。

(4) 朝鮮通信使の問題（レポートでは「朝鮮通信使の図像」）

- (6) はるきさんは、江戸時代に関する資料3に注目し、自分で調べてくまとめ2>を作成しました。くまとめ2>の に当てはまる言葉を書きなさい。

資料3



くまとめ2>

とよとみひでよし
豊臣秀吉の朝鮮への出兵(文禄・慶長の役)以来、朝鮮との国交はとざされていたが、江戸幕府の成立後に国交が回復し、資料3のように が将軍の代わりなどに日本に派遣された。一行の中には学者もあり、江戸や各地で日本の学者と交流した。

この問題は資料3とされる1枚の画像を観察し、その画像の説明にあたるくまとめ2>を読んで、あてはまる用語を記述する問題である。

生徒は教科書に掲載されている画像を見て「朝鮮通信使」とすぐにピンとくる子もいるだろうし、説明の文章内の「江戸幕府の成立後に国交が回復」「将軍の代わりなどに日本に派遣」「学者もあり、江戸や各地で日本の学者と交流」などの記述を読んで「朝鮮通信使」であることにたどり着く子もいるだろう。

すでに何度も繰り返していることだが、「朝鮮通信使」について網羅的に知識を覚え、暗記していなければ解答できないという考え方をしているなら、それは知識偏重というものである。同様に事前に試験で出される画像を見ていないと「著しく不利」になるという考え方も「視覚」知識偏重であると言える。ところがレポートは上の写真は自由社の教科書には掲載されていないので「出題の写真が初見であり、かなり不利になっている」という。「かなり不利」とは大げさすぎる。上記に書いた通り、「朝鮮通信使」という正答にたどり着くための手がかりは写真以外にもいくつもある。むしろ、写真よりも正答を確定するためには記述の方が重要であると言ってよいだろう。

ちなみに上の写真は東京書籍には掲載されているが、他のいくつかの教科書で確認したところ、別の写真を使用していた。自由社だけが違う写真を使用しているわけではない。それが各教科書会社の個性の一端というものだろう。来年度の入試問題の担当者は「著しく不利」にならないように、一つの教科書だけでなく複数の教科書の記述や使用画像を配慮して作問をしてくれるはずである。レポートの執筆者には地元・茨城県教育界を信用してもらいたいものだ。

(5) 浮世絵の問題 (レポートでは「絵画の図像と作者」)

(2) はるきさんは、1867年のパリ万博(パリ万国博覧会)に浮世絵が出品されていたことに興味をもちました。調べてみると、資料2のような日本の浮世絵はヨーロッパ絵画に影響を与えており、このような風潮を「ジャポニスム」とよぶことがわかりました。資料2を描いた人物の名前として最も適切なものを、次のア～エの中から1つ選んで、その記号を書きなさい。

資料2



- ア たわらや そうたつ 俵屋宗達
イ かつしか かくさい 葛飾北斎
ウ き た がわう たまろ 喜多川歌麿
エ うたがわ ひろしげ あんどう ひろしげ 歌川広重(安藤広重)

この問題は「ジャポニスム」という言葉からヨーロッパ絵画に影響を与えた日本の浮世絵作家を選択する問題である。

なお、レポートでは「歌川広重の「名所江戸百景おおはしあたけの夕立」とゴッホによるその模写の図像を示し、その作者を俵屋宗達、葛飾北斎、喜多川歌麿、歌川広重(安藤広重)の中から選ばせる問題である」(下線は筆者)としているが、問題には「ゴッホによるその模写の図像」はない。示されている画像は広重の浮世絵のみである。

「ジャポニスム」という言葉のみで、問題に示されている画像の作者を「歌川広重」と特定するのは難しい。その点で言えば、東京書籍が圧倒的に有利である。なぜなら、巻頭のカラーページ(レポートはp139としているが間違い)でこの広重の絵とゴッホの模写を並べて紹介しているからだ。だが、この問題は常陸大宮市が自由社の教科書を採択する前の入試問題である。(4)でも書いたが、今後は公正公平に特定の教科書のみ有利となる出題はなくなるはずである。何も心配はいらない。

以上を前提にして江戸時代の「ジャポニズム」についての自由社の記述について述べておきたい。「ジャポニズム」について自由社は1ページ使ってコラム『外の目から見た日本・浮世絵とジャポニズム』を掲載している。そこには「ゴッホと歌川広重」というパートタイトルでゴッホの手紙や当時のパリ画壇についても書いている。このコラムを読んだ生徒はジャポニズムと歌川広重を印象深く記憶に残すだろう。自由社が掲載しているのは「名所江戸百景おおはしあたけの夕立」ではないが、同じ歌川広重の「亀戸梅屋敷」とゴッホによるその模写を掲載している。仮に今年度と同じ問題が出たとしても、問題文に使用されているそのものズバリの広重の絵ではないが、正答にたどり着くことは十分に可能である。

(6) キリシト教の問題 (レポートでは「五榜の揭示」)

(5) はるきさんは、大阪・関西万博で、ある国の展示からキリシト教の歴史に興味をもちました。次のア～エの文は、日本とキリシト教の関わりについて述べたものです。年代の古いものから順に並べたときに、3番目に当たるものを、次のア～エの中から1つ選んで、その記号を書きなさい。

- ア ^{ぶんめいかいか} 文明開化の風潮が広がり、キリシト教の信仰が認められた。
イ 将軍は、初めはキリシト教の布教を黙認したが、のちに^{きんきょうれい}禁教令でキリシト教を禁止した。
ウ ^{ごぼうけいじ} 五榜の揭示では、キリシト教の禁止について記されていた。
エ キリシト教の信仰が広まり、^{てんしょうけんおうしせつ}天正遣欧使節が^{きょうこう}ローマ教皇のもとへ派遣された。

わが国のキリシト教に対する対応の変遷を問う問題である。

それぞれがいつの時代かを特定するための手がかりを見てみよう。

アは「文明開化」で明治初期であるとわかる。イは「将軍」と「禁教令」で江戸時代初期であるとわかる。ウは「五榜の揭示」で明治初期とわかる。エは「天正遣欧使節」で安土桃山期であるとわかる。するとエからスタートして次が江戸時代のイと決まる。ポイントは同じ明治初期のアとウのどちらが先でどちらが後か、である。

ウは1868年3月に出された高札のうちの一つである。明確に時間軸に「いつ」という年を特定できる。だが、アは「文明開化の風潮」と書いてあって明確に「いつ」が特定できない幅の広い時間軸である。となると思考の方向としては、イで示されたキリシト教禁止から考えて禁止が再度示され、その後に「文明開化の風潮」で「キリシト教の信仰が認められ」、それが今日まで続いている、と考えると3番目はウとなるという道筋になるだろう。これは仮に「五榜の揭示」が1868年に出されたことを知っていたとしても正答にたどり着くのはなかなか難しい問題である。なぜなら同時代でありながら時間軸の示し方の違う2つを比較しなければならないからだ。しかし、だからこそその時代の変化を広く捉えて思考することを促すよく考えられた問題と言えるかも知れない。

だが、もしこの問題が今年度の入試で出されたら「五榜の揭示」を記述していない自由社を使う生徒はあきらかに不利となる。繰り返しになるが、今後はどの教科書を使っている生徒も公正公平な出題にすること茨城県にお願いしたい。

ちなみに「五榜の揭示」は一時的なもので数年で撤去されている。中学校の歴史教育の内容としてとくに必要な知識とは言えないことを付け加えておく。